





研究だより

授業日：2017（平成29）年
6月30日（金）
発行者：教科研究担当 國廣

授業日 2017（平成29）年 6月30日（金） 5校時 第2学年1組 横尾学級
単元名 「たしざんとひきざんの筆算」

授業後の研修より

授業の視点	成 果	課 題	改 善 点
① 児童実態に 応じた 学習展開 の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの思考に沿った準備物がたくさんされていた。 お金の模型、事前に位取り表が準備されているホワイトボードを使うことで、計算の仕方の理解を深めることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「10が10こ100」が十分に説明できていない。 既習の考え方を使得って機械的に計算することはできているが、「繰り上がり」の意味が理解できていないのではないか。 図が「ひっさん」の意味、理解につながっていないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「くりあがりの1」は何かを焦点化して話し合わせる。 既習との違いを出させてから、本時の学習に入ることで、図にする意図をもたせる。
<p>検証結果①児童の実態に応じた学習展開の在り方 ……(2. 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童に「考えさせること」を精選させるために、焦点化できるような発問や手立て（準備）をしていく。 			
② 学び合いを 深める 学習形態 の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いを深めるための「話す、聞く」の指導の徹底がされていた。 自力解決で「どうにか書こう」という意識がたわってきた。 自力解決で位に分けて図にかけていなかった児童がグループで話すことで、位を意識してかくことができるようになっていた。 グループ隊形 ホワイトボードを見せ合いながら、練習している。 	 <ul style="list-style-type: none"> 自力解決が練り合いにつながっていない。 ホワイトボードをもとに発表することが全体の理解の手立てになっていない。 間違ったボードがでていたが、子どもたちの「気づき」がでていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードと同じ形の位取り表のあるワークシートをもって「自力解決」させる。 ホワイトボードを取り上げたり、全員で見合ったり時間を設定する。「質問がある人？」
<p>検証結果②学び合いを深める学習形態の在り方 ……(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ学習を効果的にさせていくために、【自力活動】のときには、全体で扱うものと同じもののワークシートを準備する。(ワークシートの工夫) 			

次回の校内研までに学校全体で取り組むこと

- 本時のつきたい力〈評価の観点〉を意識した授業展開を行うこと

本時の評価指標
(23/27人)
85%達成

